

事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和3年 3月 24日

事業所名:飯塚市社会福祉協議会筑穂支所児童デイサービス(ぴよぴよ)

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	6	0		
	2 職員の配置数は適切である	6	0		
	3 生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっている。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	4	2	・トイレや洗面台等が子どもサイズに合っていないため、踏み台を利用している。	・視覚化や情報伝達等への配慮が十分ではないため、おもちゃスペースやたなに写真を貼り何をどこに直すなど、子どもたちがわかりやすくするなどの支援をおこないます。
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっている。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	5	1		・コロナ感染予防のため、換気をこまめにおこなっていますが、網戸が外れて安全性に欠ける部分があるため修理します。 ・手洗い場の水漏れ、雨漏りなどの老朽化が気になるためこまめに掃除をします。
5 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	3	3		・職員の勤務体制・時間がちがうため、全員で集まる時間がなかなかありませんが日中職員が話し合えるように工夫します。	
6 保護者向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	6	0			

業務改善	7	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の開放やホームページ等で公開している	6	0		
	8	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	0	6		第三者による外部評価は実施していませんが、今後検討していきます。
	9	職員の資質の向上を行う為に、研修の機会を確保している	4	2	・毎月一回、ミーティングを行っています。 ・リモートにて研修を行っています。	
適切な支援の提供	10	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	6	0		
	11	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している	0	6	・事業所独自のアセスメントシートを使用している。	
	12	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	2	4		・地域支援について、具体的な内容を設定できていないため、今後計画の中に設定できるように配慮します。
	13	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	6	0		
	14	活動プログラムの立案をチームで行っている	6	0		
	15	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	6	0		
	16	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成している	6	0		

関係機関や保護者との連携	17	支援開始前には職員間で必ず打ち合わせをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	4	2	・パート職員は時間が違う為、開始してから伝えあったり確認している。	
	18	支援開始後には、職員間で必ず打ち合わせをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気づいた点などを共有している	4	2	・パート職員は時間が違い参加できないが、次の日の朝終礼事項を確認している。 ・みんながそろそろ勤務時間に共有している。	
	19	日々の支援に関して記録を取ることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	6	0		
	20	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している。	6	0		
	21	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通したもともとふさわしい者が参画している	6	0		
	22	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	6	0		
	23	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている	6	0		
	24	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている	4	1	・保護者を通して連絡をとっていることが多い。 ・医療機関等から手紙、書類などをもらっている。	・必要な際は直接医療機関と連絡できるようにしていきます。
	25	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	6	0	・電話やお手紙を渡して情報を共有している。	
	26	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	6	0	・担任の先生へ、本人の発達や様子を書いて渡している。	

関係機関や保護者との連携	27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	5	0		
	28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	2	4	・保育所の園庭へ行って遊んでいる。	・通常は近隣の保育所に行くこともあるが、今年は出来ていない。 ・コロナウイルスの感染拡大により、交流の機会が減少している。終息したら、交流の機会をもちたいと思います。
	29	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	0	6		・今年には行えていない。 ・コロナウイルス感染拡大により、参加の機会が減少している。終息したら、参加したいと思います。
	30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	6	0		
	31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている	2	4		・家族支援プログラムを確立していません。
	32	運営規定、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	6	0		
	33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら、支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	6	0		
	34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	5	1		・定期的にはではないが、そのつど申し出には応じています。

保護者への説明責任等	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催すること等により、保護者同士の連携を支援している	1	5		・コロナウイルス感染拡大防止のため、保護者同士の交流の機会が持てていない。 ・今年度は開催できていないため、コロナが終息したら、親子活動を開催したいと思います。
	36	子どもや保護者からの相談や申し入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申し入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	6	0		
	37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	6	0		
	38	個人情報の取り扱いに十分注意している	6	0		
	39	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	6	0	・わかりやすく心がけている。	
	40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	2	4		・ハロウィンの時、子育てサークルに来てもらっているが今年はコロナウイルスでできていない。 ・コロナウイルス感染拡大防止のため地域との交流はできていない。終息したら招待したいと思います。
非	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	4	2		
	42	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出、その他必要な訓練を行っている	6	0		
	43	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認している	6	0		

常時等の対応	44	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	5	1	・保護者からの情報を、栄養士とともに共有し、対応できる範囲で対応している。	
	45	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	6	0		
	46	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	6	0		
	47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	6	0		

○この「事業所における自己評価結果(公表)」は、事業所全体で行った自己評価です。